



理工学専攻 社会基盤・建築デザインコースと
都市基盤工学コースの大学院生が
第 59 回地盤工学研究発表会において優秀論文発表者賞を受賞

【概要】

理工学専攻 社会基盤・建築デザインコース博士後期課程 1 年の NOORSALY Siti Rizkyna さんと同専攻 都市基盤工学コース博士前期課程 1 年の中尾 亮太さんが、地盤工学会主催の第 59 回地盤工学研究発表会（開催地：北海道旭川市）において優秀論文発表者賞を受賞しました。

【本文】

理工学専攻 社会基盤・建築デザインコース博士後期課程 1 年の NOORSALY Siti Rizkyna さん（副指導教員：三島 悠一郎 講師）と同専攻 都市基盤工学コース博士前期課程 1 年の中尾 亮太さん（主指導教員：日野 剛徳 教授）が、2024 年 7 月 23 日（火）～26 日（金）にかけて北海道旭川市で開催された地盤工学会・第 59 回地盤工学研究発表会にて、優秀論文発表者賞を受賞しました。

同賞は、今後の地盤工学分野を担う若手技術者および若手研究者の活性化、研究意欲の向上を目的として設立された賞であり、「地盤工学会の発展に貢献しうる優秀な論文を適切に口頭発表した」と認められた 35 歳以下の技術者および研究者に贈られるものです。

NOORSALY さんは「Fundamental Study on Sulfate Provision Mechanism from Peat Soil to Irrigation Channels, Indonesia（インドネシアにおける泥炭土壌から灌漑用水路への硫酸供給メカニズムに関する基礎的研究）」について発表し、地盤環境調査の分野で受賞しました。彼女の出身地であるインドネシアの南カリマンタン州は泥炭地が広がる地域であり、農業管理が困難な現状にあります。泥炭土壌から灌漑用水路への硫酸塩供給メカニズムを解明するための現地調査と水収支のシミュレーションを行い、水の分布動態予測および土壌の好氣的・嫌氣的状況に関する研究を進めています。この視点は、泥炭地地域における持続可能な水・農業管理にとって極めて重要です。

中尾 亮太さんは、「蛍光測定法の発光度に基づくセメント系固化材の混合度の判定と換算一軸圧縮強さの相関」について発表し、地盤改良の分野で受賞しました。有明海沿岸道路における高盛土下の深層・中層混合処理工法において、有明粘土や蓮池粘土のような現地土とセメント系固化材がどのように混ざり合っているのか可視化し、強度発現特性との間の相関性について研究を行いました。この技術は今後、深層・中層混合処理工法による改良土の品質の向上、同改良土における固化不良等の施工トラブルの回避に寄与することが期待されています。

学会ホームページ（地盤工学会）：<https://www.iiban.or.jp/>

受賞者リスト：https://www.iiban.or.jp/wp-content/uploads/2024/09/happyou_59.pdf



NOORSALY Siti Rizkyna さんの発表の様子



中尾亮太さん(左)と主指導教員の日野剛徳教授(右)



優秀論文発表者賞